

私にとってのカムデン派遣

引率者 田中 俊夫

私が柏市の国際交流に関わるようになったのは鈴木眞市長の1期目と2期目の頃でした。その頃は現在のような国際交流協会はなく市役所の主導ですべての行事が行われていたように記憶しています。その頃の私はまだ若くトランスから来た学生を内緒で都内や他の観光地などに連れて行って市の職員の方によく注意されたものです。

そんな私が今回カムデン派遣の引率をする事になったのは、本当に偶然の事が始まりでした。ある日、国際交流協会のカウンターに協会のパンフレットを貰いに行ったところ、ちょうどその日その時間にカムデン委員会が開催されていて「よかったら見学していきませんか？」と声をかけていただきました。それから約1か月後にはトランスではなくカムデン委員会に所属して活動するようになりその年にカムデンから来柏したカムデン青年受け入れのお手伝いをするようになりました。

この引率者のお話をいただいた時、そんな大役はとても私には果たせないと思ってお断りさせていただきました。しかし、よく考えればこんなチャンスはこの機会を逃したら死ぬまで二度とないだろうという思いに変わりました。日常生活で英語を使うことは全くありませんが、柏から派遣される中高生のために役に立てるならと思いき受け入れることになりました。

実際に派遣生の引率をして感じたことは「友情」と「愛情」です。ここ数年諸事情によりカムデンからの中高生は来日していない関係もあり柏からの派遣学生のホームステイ先を確保することに大変苦労しているようです。カムデン到着までは本当に不安でいっぱいでした。しかし、カムデン到着時にシビックセンターで待ち受けてくれていたホストファミリーたちと会話をする中でそんな不安はきれいに消え去っていました。朝晩の送り迎えの時に交わす会話も愛情に満ち溢れていました。ホストファミリーの子供たちもいろいろな行事と一緒に参加してくれる中、その輪の中にいる自分自身も高校生に戻った気分本当に幸せな気持ちになりました。また何気ない会話の中で子供たちが親を思いやる言葉、また親が子供を思いやる言葉に触れ今までの自分が恥ずかしくなる思いでした。私たち日本人に愛情がないわけではありませんが、それを言葉として表現することの大事さを感じました。

今回このような機会を与えてくださった柏市役所をはじめ、KIRA、CIFA、派遣生のご家族の方、カムデンのホストファミリーの方々に心からお礼申し上げます。また、同じ引率者として学生たちをリードし未熟な私をしっかりサポートしてくれた新谷有希奈さんに心から感謝します。

